

RITEにおけるCCS安全評価研究の取り組みについて

Activity for Safety Assessment of CCS at RITE

林 栄治 [1]; 中川 加明一郎 [2]; 小牧 博信 [1]; 松本 弘 [1]; 岡本 征雄 [1]; 三戸 彩絵子 [3]; 北村 圭吾 [1]

Eiji Hayashi[1]; Kameichiro Nakagawa[2]; Hironobu Komaki[1]; Hiroshi Matsumoto[1]; Ikuo Okamoto[1]; Saeko Mito[3]; Keigo Kitamura[1]

[1] RITE; [2] 電中研; [3] 地球環境産業技術研究機構

[1] RITE; [2] CRIEPI; [3] RITE

<http://www.rite.or.jp/>

二酸化炭素回収・貯留（CCS）技術について、本格導入を円滑に実施するために必要な基盤技術を構築することが重要である。

RITEでは、長岡における実証試験で1万トンのCO₂を圧入し、モニタリングやシミュレーション技術の開発を行ってきた。ここで得た知見を元に、現在は安全評価手法として、貯留層内のCO₂挙動シミュレーション技術、モニタリング技術、環境影響評価手法等を開発している。また、CCS候補地サイトの選定基準、排出源近傍沿岸域での貯留ポテンシャルを明確化し、社会的理解獲得に貢献する知見を確保するための研究開発を行っている。

本講演では安全評価手法の開発についてのRITEでの取り組みを紹介し、実適用に向けた課題について述べる。

本研究は、経済産業省の補助事業「二酸化炭素固定化・有効利用技術等対策事業（二酸化炭素地中貯留技術研究開発）」の一環として実施したものである。